

**B—67 本学学生およびその家族の衣生活の実態  
調査—被服所持量および調製状況と所得  
の関連について—**

名古屋市立女子短大 辻村 美津  
○佐野 恂子

1. 私達はさきに、被服指導の参考資料とするため、本学被服科の学生とその家族を通して、衣生活の実態調査を行ない、日常着・外出着における和洋服の利用状

況、被服の所持数、被服調製の状況等についてはすでに報告した。本報はさらに、被服の所持数、および被服調製状況と所得との関連について考察を行なったものである。

2. 調査の時期は、昭和38年2月である。調査の対象は本学被服科の学生とその家族で、調査用紙を配布し回答を求めた。調査の内容は、内職などを含めた各世帯の所得と、和洋服の種類別・繊維別所持数、およびその調製状況についてである。

3. 男子では和・洋服のいずれもその所持数は、所得が多くなるにつれ増加しているが、その差は大きくない。女子では所得が多くなるにつれ、所持数が増加し、特に80,000円以上では、その割合が著しい。調製の状況については、和洋服いずれの場合も、所得が増すにつれ家庭製作は減少し、仕立屋依頼が増加している。これは、和服の場合その傾向が大きい。既製品の利用については大差はない。